

中田かわら版 11月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■自治会館拝見

険しかった道のり～完成までに 18 年！

ひがしが丘町内会館

中田地区社会福祉協議会会長 飯島猛旦

私たちの町内会は、1964 年（昭和 39 年）設立後 50 年目にしてやっと会館を建てることができました。私が 1 回目の町内会長

を引き受けた 1983 年（昭和 58 年）は、会館はおろか物置ありませんでした。テント、テーブル、椅子、段ボール箱に入った書類等軽トラック 1 台分ほどの備品は、全て会長の自宅で保管しました。その為、会長になった私の最初の仕事は、物置の用地探しと建設でした。

13 年後（1996 年）、2 回目の会長に就任した私は、総会で会館建設を提案しましたが認めてもらえず、「建設検討委員会」設置に切り替え、町内会計繰越金からほぼ全額に近い 60 万円を建設基金として別途会計に入れました。しかしその後続く後任会長は、会議なら近くの「しらゆり公園集会所」を使えばよいとして、「建設検討委員会」も解散してしまいました。

8 年後、嶋貫会長（現連合自治会副会長）時代、農協銀行から動きのない 60 万円の預金口座の照会があり、事態が再燃。2004 年「会館建設委員会」を再び立ち上げました。最低でも 500 万円の基金が必要と見込まれ、以後 6 年間で 468 万円を積み立てました。資金はできたとして 2011 年（平成 23 年）以降、嶋貫会長と共に、泉区役所へ「災害時にも是非必要な会館」用地について、陳情に日参しました。

2011 年 3 月 11 日副区長への陳情を終えまだ区庁舎に留まっていた時、東日本大震災見舞われ、これを機に「何が何でも会館を！」の決意を新たにしました。

幸い副区長の深い理解のもと、地域振興課、土木事務所と共に関内の環境創造局へ「隣接の公園内に町内会館用地を！」とお願いしましたが「認められない」の回答でした。だが少しして、区から「道路はないが公園に隣接した民有地がある。町内会の所有になれば、公園拡張工事と連動させて道路の整備が可能」との情報が入りました。

以後数か月間、所有者へ用地譲渡のお願いに日参し、所有者ご家族の深いご理解でなんとか「譲渡」の承諾を頂きました。私にとってこの日は、終生忘れられない日になりました。引き続き臨時総会、法人化、補助金申請、土地譲渡契約を経て、2012 年 10 月に 50 坪の土地を購入できました。

2014 年 3 月、公園拡張工事完工と共に長期に亘った会館建設計画も、紆余曲折を経ながら竣工しました。これも市長の「町内会は市にとって課題解決のためのパートナー」のお考えのもと、泉区役所の「地域へ寄り添った思いやり行政」の結実に他ならないと思っています。

◆ 編集委員より

今回は訪問インタビューの形ではなくご苦勞なされた飯島様に直接原稿を書きいただきました。紙面には書ききれないほどの苦勞話も伺っております。特に民有地の譲渡に至るまでの話は記憶に残っています。ありがとうございました。

（編集委員 松本 正）

～一人ひとりが CO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～



会館用地現地調査（地主、役所、町内会）



樹木伐採の町内会員



このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ
葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

「きょうの話題」

とうかいりん

東海林（しょうじ）さんのこと

私の友人に東海林さんが二人いる。現役時代の後輩で男性の東海林（とうかいりん）さんと、もう一人、現在コーラスの仲間である女性の東海林（しょうじ）さんである。

昔のことになるが、あるとき私の職場に一人の新入社員の青年が入ってきた。自己紹介で「とうかいりん（東海林）です。よろしく願います」。上司がすかさず「ああ、しょうじ（東海林）さんね」と、言ったものだ。

「いいえ、とうかいりん（東海林）です」。その時の彼のむっとした顔が忘れられない。普通なら笑ってすますところだが、物おじしない態度に「どこか見どころがある」と感じた。案の定、彼は今は立派な記者として活躍している。

ところで、誰でもが当たり前のように「しょうじ」と呼んでいるが、常識的には「しょうじ」とは読めない。「しょうじ」と読む名字は他にもあることはある。東北地方に広く分布し、中でも多いのは「庄司」と書くもの。

『名字の謎』の本によると荘園に由来している。荘園の所有者である京都の公家たちは、自分の代わりに人を派遣して荘園の管理をさせる。こうした人たちを荘（庄）司と言っていた。つまり「庄司」とは中世の職業姓であった。

庄司姓は各地にあったが、特に東北南部で広がった。漢字表記も一部で変化していった。例えば、宮城県では「庄司」と書く「しょうじ」姓が最も多い。南関東では「荘司」、山陰地方では「正司」の名字が多いという。

さて、本題の「東海林」姓の由来だが発祥の地は山形県で文字どおり「とうかいりん」と読んでいた。やがて秋田県に広がっていった東海林一族は「荘司」を務めるようになった。「しょうじ」を務める東海林さんは、両者を合体して「しょうじ」と読ませるようになった。現在でも秋田県では「しょうじ」、山形県では「とうかいりん」と読ませるのが一般的。数からいえば「とうかいりん」形が多いらしいが、なぜか、「しょうじ」さんには有名人が多い。例えば、歌手の東海林太郎が有名だが、東海林さだお（漫画家）、東海林のり子（元芸能リポーター）、東海林 悠（音楽家）、東海林愛美（芸人）など。「東海林」の謎が分かったら幸いである。

（宮田貞夫）



<編集委員>

部長 佐々木弘美（広報委員）、

広報委員；山木重樹、木下良枝、宮田貞夫、松本 正、葛西健一

◎発行：中田連合地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会



「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！